

てつぞうきっしょうてんりゅうぞう
「鉄造吉祥天立像」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（彫刻） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字上山田 2443 番地 普携寺
- 所 有 者 普携寺
- 概 要 立像（ちゅうてつ 鑄鉄、さいしき 彩色（はくらく 剥落））
寸法 像高 22.5 cm 頂～顎 4.8 cm 面幅 2.2 cm 面奥 2.8 cm
肩張 5.2 cm 肘張 7.4 cm 裾張 5.3 cm
- 時 代 鎌倉時代末から南北朝時代と推定。
- 公 開 寺室のため非公開

寺ではかんのんぞう観音像と称していますが、たれかみ垂髪を肩にたらし、三面、飾りてんかん天冠を戴き、唐の貴婦人の着衣であることから、「かくぜんしょう覚禪抄」に説くところのきっしょうてんぞう吉祥天像です。

本像は、鑄鉄製で珍しいものです。吉祥天は、福德を司る女神として古くからうやま敬われていたもので、しんごんみつきょう真言密教成立後少なからず信仰されていました。ただし、本像は背及び膝下後にかがみいた鏡板挿込み突起があるので、みしょうたい御正体＝かけぼとけ懸佛の本地佛であったが、鏡板を失ったものと考えられます。しかももすそうら裳裾裏及び足先が火を受けているので、火災により木製鏡板を焼失し、本尊のみ残存したのであろうと考えられます。

